

KUROSHIMA PAMPHLET COVER

世界文化遺産

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産

World Cultural Heritage
Hidden Christian Sites in the Nagasaki Region

黒島の集落

HEADLINE ON RIGHT

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産

PULL QUOTE ON RIGHT (MIDDLE OF PAGE)

宣教師不在の中ではぐくまれた日本独自の宗教的伝統

BOLD INTRO TOP RIGHT

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産は、潜伏キリシタンの伝統のあかしである遺産群です。潜伏キリシタンは、キリスト教が禁止され、宣教師が追放された時期においても信仰を貫きました。彼らは神道や仏教などの日本の伝統的宗教や一般社会と関わることによって信仰を隠し通すことができました。

PICTURE TOP LEFT

外海

移住

移住

移住

移住

12 の構成資産の位置図および潜伏キリシタンの外海地域からの移住経路図

BODY TEXT

I . 宣教師が去り、キリシタンの潜伏が始まる

1549 年、イエズス会宣教師フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が日本に伝えられました。その後が続いて来日した宣教師たちの活動や、南蛮貿易の利益を求めて改宗したキリシタン大名の保護に後押しされ、この新しい宗教は全国に広まりました。長崎地方の民衆は宣教師の指導を長く受けました。「組」と呼ばれる信仰の共同体がつくられ、それぞれの集落で指導者を中心に信仰が維持、実践されました。

しかし、1587 年豊臣秀吉はキリスト教神父の追放令を発布、その後 1614 年に徳川幕府がキリスト教の完全禁止令を出し、日本の教会堂はすべて破壊され、宣教師は国外へ追放されました。かつてキリスト教を積極的に取り入れたキリシタン大名などの支配階級は仏教へと改宗し、ひそかに潜入する宣教師や彼らをかぐまっした信徒には過酷な拷問が加えられ処刑されました。一般民衆に向けたキリシタン摘発は次第に強化されていきました。

1637 年、禁教が深まり藩主の圧政が強まる中、島原藩のキリシタンが蜂起して**原城跡①**に立てこもった「島原・天草一揆」が起こりました。衝撃を受けた幕府は、宣教師の潜入の可能性のあるポルトガル船の入港を禁止し、鎖国政策をとりました。1644 年に最後の宣教師が殉教すると、日本のキリスト教信徒は宣教師の導きなしで信仰を続けていかなければならなくなりました。

II. 潜伏キリシタンの伝統が発展する

宣教師との接触が絶たれた後も、潜伏キリシタンは日本中に存在しました。彼らは厳しい摘発をかいぐり、社会的には普通に生活しながらひそかに信仰を続けました。17 世紀後半、各地で潜伏キリシタンの大規模な捕縛が相次いで起こりました。潜伏キリシタンたちは摘発され、弾圧されて、日本のほとんどの地域で潜伏キリシタン集落が途絶えていきました。

しかし、キリスト教の伝来期に最も集中的に宣教が行われた長崎地方においては事情が異なりました。18 世紀以降も長崎のキリシタンは共同体をひそかに維持し、独自に信仰を実践する方法を模索していきました。それぞれの集落は独自の対象をひそかに拝みました。その中には山や島(**平戸の聖地と集落②③**)、生活・生業に根ざした身近なもの(**天草の崎津集落④**)、聖画像(**外海の出津集落⑤**)、神社(**外海の大野集落**)などがありました。彼らの儀式や信仰対象はいずれも日本の伝統的宗教で使われるものとよく似ており、独自の信仰形態が形成されていきました。

250 年にわたってキリシタンが潜伏できた一因は、取り締まりを行う幕府の側に、本人が信仰を表明しない限り密告も処罰もしないという黙認の姿勢があったことでした。潜伏キリシタンによる秘匿と社会的な黙認との絶妙な均衡を背景に、日本の伝統的宗教や一般社会と関わりながら自分たちの信仰を続ける潜伏キリシタンの伝統が育まれました。